令和元年度第９回政策会議概要

１　開催日時：令和元年１０月２１日（火）9：55～10：40
２　開催場所：プレゼンテーションルーム
３　議事概要：以下のとおり
　（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題１　ワーク・ライフ・マネジメントについて
●佐藤行財政改革推進課長（資料１に基づき説明）
　上半期時点の状況について、時間外勤務は目標を１６時間超過したが、超長時間勤務者と年休取得については目標を達成する見込みである。時間外について、部局間のばらつきは若干小さくなったが目標の達成が厳しい部局が多い。今年度は目標の最終年度であるため、引き続きマネジメントをお願いしたい。

●紀平総務部長
　時間外勤務については豚コレラの防疫作業等の影響もあると思うが、これについては、全庁をあげてご対応いただいたことにお礼申し上げる。
　一方で、ワーク・ライフ・マネジメントにおける目標の最終年度であるため、当初の目標を意識して取り組み、特に、思い切った業務の見直し、削減について、部局長が率先してご検討いただきたい。

☆鈴木知事
　部局長は所属長まかせにせず、思い切った業務の見直し、削減について、率先して検討し、部局としての本気度を示してほしい。限られた時間、職員の中で、危機管理対応など職員にしかできない業務に余裕を持って対応できれば、新たな発想も生まれ、県民サービスにつながる。

議題２　「県民の声を受けて」公表分の概要について
●福永戦略企画部長（資料２に基づき説明）
　９月２日、９月１７日及び１０月１日に県 Web で公表した「県民の声」の概要について、声の件数は２６件で、複数の所属で対応したものがあり、県の対応件数は２９件となっている。
　いただいた声の主な内容として、今回も職員に関する意見が３件あった。
　整理番号１８は、県職員が通勤時に横断歩道を利用せずに道を渡っているという苦情。どこの庁舎においてもあると思われるので、各部局で話し合われる際はこうした事案を共有し、

再発防止を徹底していただくようお願いする。

☆鈴木知事

「法律上問題ないので問題ないです」ということではない。交通安全などで働きかけるときは、マナーを守りましょうと言っているのだから、マナーをしっかり守る、県の職員として恥ずかしくない行動を取ること。

県民の皆さんの違和感とかを真摯に受け止めて、法律上問題ないから問題ないというようなことではなく、マナーを守った行動をして欲しい。

議題３　政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

●中野課長【企画課】（資料３－１に基づき説明）

職員の政策形成能力の向上を目的として、政策創造員 20 名が４つのワーキンググループ（WG）に分かれて、中長期的かつ部局横断的な課題等を対象に、既存の枠にとらわれず幅広い視点から調査・研究に取り組んでいる。本日の中間報告では、幹部職員の皆さんからご意見・ご指摘をいただき、政策創造員の今後の調査・研究活動の一層の充実、メンバーの能力向上などにつなげていきたいと考えている。今後の予定としては、本日いただいたご意見等をふまえ、来年２月に最終報告書をとりまとめ、報告させていただく。

（WG１から４までの各グループ代表が資料３－２～３－５に基づき報告）

☆伊藤南部地域活性化局長

WG１の報告に関して、いくつか質問をしたい。

１つ目は、なぜ、東紀州地域なのかということで、東紀州地域の魅力を理解してもらうことが必要だと思うが、自然や人というのは、別の地域でも同じことが言えると思われる。東紀州地域の魅力はその他に何があるのか、また、行政だけで主導していっていい結果が得られるのかということが１つ目。

２つ目は、県立の専門職大学の設立とＩＣＴ関連企業誘致はとてもいいと思うが、目的と手段の乖離があまりにも大き過ぎるのではないかというもの。専門職大学の設立が主目的になってしまって、ＩＣＴ関連企業の誘致がそれに付随するものになってしまうのではないかというのが２つ目。

３つ目は、「東紀州地域の若者が地域の就労先について知るための手法についても調査・研究を行いたい」とあるが、今、研究されていること、成果があれば教えてもらいたい。

●野添主事【WG１：企業総務課】

まず、企業誘致を行うにあたっての東紀州地域の魅力や強みについて、豊かな自然があるので、心豊かなワークスタイルが実現できることなどを考えているが、それを満たす地域は他にもあるので、今後どのように違いを生み出していくのか、他の地域には無いコンテンツ

を用意することが必要だと考えているので、今後はその部分を中心に研究を進めたいと考えている。現時点では、グループ内で議論を行っているが、非常に難しい部分だと考えている。

２つ目の専門職大学について、設立にあたっては、非常に経費が掛かるという面もあると思うが、ヒアリングを行う中で、ＩＣＴ人材を育成し、その地域でＩＣＴ人材を雇用できるとなれば、企業が地域に参入するインセンティブになるのではないかという意見もいただき、企業誘致にあたり、地域での情報教育の推進も合わせてやっていくことで、企業の参入を促したいと考えている。

３つ目の「東紀州地域の若者が地域の就労先を知るための手法」については、ヒアリングを行う中で、今後検討する必要がある課題であるということが分かったが、今の時点では、まだ、検討は行えていない。

☆伊藤南部地域活性化局長

専門職大学の設立の件に関しては、なぜ東紀州に設立するのかといったことや、逆に人材が都会に引っ張られないかなど、懸案事項も考えられるので、そういったことも合わせて調査・研究していただきたい。

☆福永戦略企画部長

ＷＧ２について、協創窓口の創設とあるが、この窓口はどこまでやることを想定しているのか。課題解決にあたって非常に効率的な手法だと思うが、協創窓口は受け付けて各部局とどのように絡むのか、そういう想定はされているか。

●田川主査【ＷＧ２：財政課】

この窓口では民間との間のコンサルティングまでやることを想定している。単に受け付けて、各部局に引き継ぐというものではなく、協創というのはベンチャービジネスをつくるようなイメージもあるので、そういったビジネスモデルといったところまで提案できる窓口を想定している。

横浜市へのヒアリングで気づいたが、最初は事業課がついてきてくれないという面もあったということだが、ひとつ成功したロールモデルができると、事業課も実はこういう課題があるがどうだろうという形で、協創の窓口に相談に来るなど、好循環が生まれているという事例もあるので、最初にコンサルティングまでする必要があると考えている。その後、各事業課において自走できるモデルができれば良いと考えている。

☆大橋子ども・福祉部長

ＷＧ４について、県民意識調査で、「働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」と感じられていないという説明があったが、三重県の県民所得・収入は全国的にみるとそんなに低くないはずなので、そうであれば、収入増をめざすのではなくて、エビデンスに基づき、実感に直接アプローチするといった議論はあったのか。

●市川主事【WG４：政策提言・広域連携課】

実感に直接アプローチするチャレンジについては、グループ内の議論では至っておらず、何をもって実感を数値化するかについて、見当がつかなかったため、まずは収入増に向けた取組について、検討を始めた。

☆大橋子ども・福祉部長

中間報告全体に向けての話として、初代政策創造員としては、自分たちの頃より、中間報告がとてもよくできているが、課題の設定やアプローチがチャレンジングなのかという目で見ると、大人しく見える。今後、平凡なものに収まることがないようにやってもらいたい。

☆渡邉副知事

とりまとめとして非常に素晴らしいと思う。ただ、皆さんへのお願いは、もっと課題に肉薄するようなヒアリングや、企業ニーズなど、いろいろなニーズにも肉薄してもらうと担当部ではなかなか捉えきれなかったようなアプローチや課題の把握ができ、より問題がリアルになってくるし、対策自身の実行性も高まると思うので、時間がタイトな中だと思うが、これから、ヒアリングのあり方、アプローチの仕方についても、もっと工夫をしていただき、最終報告で、担当部長が驚くような発表をしていただければ、大変うれしい。

☆鈴木知事

中間報告として、良くまとまっていると思うし、行政だけでなく、いろんな人たちを巻き込んでやっていこうという視点が共通であるのは良いこと。最初のディベートの時から各ワーキングを見ているので、最初に設定していたテーマが跡形も無いワーキングもあるけれども、そういう意味では紆余曲折あってここに来たというのを感じるが、ここからは中間報告も終えたので、しっかりと、大きな背骨はぶれずに、今日指摘があったことをしっかり追及することで、最後の成果物として良いものになることを期待している。

以上